

2025 年度の項目別の自己評価表

日本工学院八王子専門学校

※本表は 2026 年 3 月 31 日現在の状況に基づき作成しています。

1. 学校の教育目標

本校は、「理想的学びは理想的環境にあり」の理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」ことをミッションとしている。建学の精神である「創意工夫」と「開拓者精神」を基盤に、専門知識・技術に加え、人間力や社会人基礎力を備えた実践的専門職業人の育成を目指している。

また、「若きつくりびと」の育成を教育活動の中心に据え、教育設計図に基づく体系的な学びと実践教育を通じて、専門力・課題解決力・コミュニケーション力の向上を図っている。さらに、産学連携教育や地域連携活動、学科横断型プロジェクト「Vision Craft」などを通じて、社会に新たな価値を創造できる人材の育成を推進している。

2. 本年度に重点的に取り組んだ目標・計画

2025 年度は、教育の質向上と社会環境の変化への対応を図るため、以下の事項を重点的に推進した。

- ① 教育設計図、シラバスおよび授業評価を活用した教育の質保証
- ② 各学科の専門分野に応じた AI 教育の推進
- ③ 2026 年度の単位制導入に向けた教育課程および運営体制の整備
- ④ 社会や産業界のニーズに対応した学科再編および教育改革
- ⑤ 多様化する学生への支援および留学生支援体制の強化
- ⑥ DX および AI 活用による学校運営・業務改善の推進

2. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評 価 項 目	評価
1.学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2.学校における職業教育の特色は何か	4
3.社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4.学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5.各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

AI 技術の進展や産業構造の変化に対応した教育内容の継続的な見直しが必要である。教育内容と業界ニーズとの整合性を高め、将来の社会環境変化を見据えた人材育成を推進する必要がある。

留学生の増加および国籍の多様化に伴い、日本語教育、生活支援、就職支援を含む総合的な教育体制のさらなる充実が求められている。

2026 年度から導入する単位制教育を活用し、学生一人ひとりの学びの選択肢を広げる教育体制の構築が必要である。

少子化が進行する中、高校生や社会人、留学生など多様な学習者層のニーズを踏まえた将来構想の具体化を進める必要がある。

②今後の改善方策

教育設計図およびシラバスの継続的な見直しを行い、企業・業界との連携を通じて社会のニーズに即応した教育内容の改善を図る。

全学科における AI 教育の実装を推進し、AI を活用して課題解決できる実践的人材の育成に取り組む。教職員研修を実施し、教育内容の充実を図る。

単位制導入を契機として、学科横断履修や選択科目の充実を推進し、総合専門学校としての強みを活かした教育改革を推進する。

留学生教育については、日本語教育、資格取得支援、就職支援の充実を図るとともに、国際交流サロンを活用した学習支援・生活支援体制を強化する。

③特記事項

本校では教育設計図に基づく体系的な教育を実践するとともに、企業連携や地域連携を活用した実践教育を推進している。また、学科横断型プロジェクト「Vision Craft」を継続して実施し、学生が主体的に新たな価値創造へ挑戦する環境を整備している。Vision Craft はゲームクリエイター小山順一朗氏（コヤ所長）の指導のもとで実施されており、学科や専門分野を超えた協働により、創造力・協働力・課題解決力を育成する本校独自の教育活動として定着している。

また、社会や産業界の変化に対応するため、学科再編および教育改革を継続的に進めている。2027 年度には IT カレッジに「サイバーセキュリティ科」、テクノロジーカレッジに「フィギュア造形科」を新設予定である。サイバーセキュリティ科では AI 時代に求められる高度情報セキュリティ人材を育成し、フィギュア造形科では海洋堂等との教育連携を活用しながら、アナログ造形からデジタル造形まで対応できる高度造形人材の育成を目指している。

さらに、2026 年度から導入する単位制を活用し、多様な学びの実現と教育価値の向上に取り組むことで、総合専門学校としての特色を強化し、地域社会および産業界に貢献できる人材育成を推進している。

（２）学校運営

評 価 項 目	評価
1.目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2.運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3.運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4.人事、給与に関する規定等は整備されているか	3
5.教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6.業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7.教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8.情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

1. 教育改革を推進するための組織マネジメント強化

単位制導入や学科再編、AI 教育推進など教育環境が大きく変化する中、学校目標と部署目標、個人目標を連動させた組織運営をさらに強化する必要がある。各部署における PDCA サイクルの実効性向上や、部門横断による課題解決体制の構築が求められる。

2. 業務効率化および DX 推進

少子化や学生支援業務の多様化に伴い、教職員の業務負担が増加している。教育活動の質を維持しながら、業務改善や DX を推進し、限られた人的資源を有効活用できる体制整備が必要である。

3. 教職員育成および組織力向上

社会環境や教育ニーズの変化に対応するため、教職員の専門性向上ならびにマネジメント力向上が求められている。AI 活用や留学生対応など新たな教育課題に対応できる教職員育成が必要である。

4. 人事・給与制度の継続的な見直し

人事・給与に関する規程等は整備されているが、社会情勢や働き方の変化等を踏まえ、時代に即した制度となるよう継続的な見直しが必要である。

②今後の改善方策

1. 目標管理制度の充実

学校・カレッジ・学科・個人の目標を連動させた目標管理制度を活用し、組織全体で重点方針の達成を目指す。また、定期的な進捗確認を通じて PDCA サイクルの定着を図る。

2. 業務改善および DX の推進

勤怠管理システムや各種情報システムを活用するとともに、会議運営や事務手続きの見直しを進め、業務効率化を図る。あわせて、AI 活用による業務改善の可能性についても検討を進める。

3. 教職員研修の充実

教育力向上研修、AI 活用研修、留学生支援研修などを計画的に実施し、教職員の資質向上を図る。また、好事例の共有を通じて学校全体の教育力向上につなげる。

4. 人事・給与制度の見直し

社会情勢や働き方の変化等を踏まえ、人事・給与に関する規程や制度について必要な見直しを行い、適切な運用を図る。

③特記事項

本校では、学校運営方針に基づき、学校・カレッジ・学科・個人の目標を連動させた目標管理制度を継続して運用している。各部署において年間目標を設定し、定期的な進捗確認を行うことで、学校全体の教育活動および学校運営の改善に取り組んでいる。

また、2026年度から導入する単位制への対応や、2027年度新設予定のサイバーセキュリティ科、フィギュア造形科の設置準備など、中長期的な学校運営を見据えた教育改革を進めている。専門学校部門方針に基づき、教育の質保証、AI教育推進、学科再編を重点施策として位置づけ、全校的に取り組んでいる。

人材育成の面では、教職員研修やFD活動を通じて教育力向上を図るとともに、AI活用やDX推進に関する研修機会の充実に努めている。また、勤怠管理システムの運用を継続し、コンプライアンス意識の向上や働きやすい職場環境づくりを推進している。

さらに、多様化する学生への対応や留学生支援体制の強化を進めるため、教務課、学生課、キャリアサポートセンター等が連携しながら組織横断的な学校運営を行っている。学内連携の強化を図ることで、教育活動と学生支援のさらなる充実に取り組んでいる。

(3) 教育活動

評価項目	評価
1.教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2.教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3.学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4.キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5.関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6.関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7.授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8.職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9.成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10.資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11.人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12.関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13.関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14.職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

1. 教育の質保証と授業改善の推進

教育設計図およびシラバスに基づく教育活動を実施しているが、学科ごとの教育成果や授業改善の取組状況には差が見られる。教育の質保証の観点から、授業評価結果や学修成果を活用した継続的な改善活動を推進する必要がある。

2. AI 時代に対応した教育内容の充実

生成 AI をはじめとする技術革新が急速に進展する中、全学科において AI 活用を含めた教育内容の見直しと実践的な教育環境の整備が求められている。

3. 単位制導入に伴う教育課程改革

2026 年度から導入する単位制を活用し、多様な学びを実現するため、学科横断履修や選択科目の整備など教育課程の再構築が必要である。

4. 教員の教育力向上

教育内容の高度化や学生の多様化に対応するため、企業研修や教員研修を通じた指導力向上および教育手法の共有を継続的に行う必要がある。

②今後の改善方策

1. 教育の質保証体制の強化

授業評価アンケート、教育成果の検証、教育設計図の見直しを組み合わせた PDCA サイクルを確立し、教育の質向上を図る。専門学校部門方針に基づき、シラバスおよび教育設計図の高度化を推進する。

2. AI 教育の全学展開

AI システム科を中心に蓄積された教育成果を活用し、各学科の専門分野に応じた AI 教育を展開する。また、教職員向け研修を実施し、授業への AI 活用を推進する。

3. 単位制を活用した学びの多様化

学科横断型教育や選択科目の充実を進め、学生が主体的に学習内容を選択できる教育環境を整備する。総合専門学校としての強みを生かした新たな教育課程の構築を進める。

4. 企業連携教育の強化

企業・業界との連携教育やインターンシップをさらに充実させ、実践的な職業教育を推進する。また、教育課程編成委員会の意見を教育内容へ反映し、社会ニーズへの対応を強化する。

③特記事項

本校では、教育設計図を基盤とした体系的な教育課程を編成し、実験・実習・演習を重視した職業実践教育を展開している。各学科において企業や業界団体との連携を図りながら、専門知識・技術だけでなく社会人基礎力や実践力の育成に取り組んでいる。

また、本校独自の学科横断型プロジェクト「Vision Craft」を継続して実施している。Vision Craft では、学科や専門分野を超えた学生が集まり、ヒットプロダクト創出をテーマとして企画・開発に取り組んでいる。創造力、課題解決力、コミュニケーション能力を育成する実践教育として定着しており、本校の特色ある教育活動の一つとなっている。

さらに、産学連携教育にも積極的に取り組んでいる。高尾登山電鉄との共同プロジェクトをはじめ、各分野の企業や団体と連携した授業、作品制作、イベント運営等を実施し、学生が実社会と接する機会の充実を図っている。これらの取組を通じて、専門分野の知識・技術だけでなく、実務能力や協働力の育成につなげている。

AI 教育については、専門学校部門方針に基づき全学的な推進を進めている。AI システム科を中心に各種コンテストやプロジェクト活動へ参加し成果を上げているほか、生成 AI を活用した学習支援や授業改善についても検討を進めている。

また、2026 年度からの単位制導入に向けた教育課程の整備を進めている。学科横断履修や選択科目の充実など、多様な学びの実現に向けた準備を進めるとともに、2027 年度新設予定のサイバーセキュリティ科およびフィギュア造形科の教育内容構築にも取り組んでいる。

(4) 学修成果

評 価 項 目	評価
1.就職率の向上がはかられているか	4
2.資格取得率の向上が図られているか	4
3.退学率の低減が図られているか	4
4.卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5.卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

3. 休学・退学防止に向けた支援体制の強化

学生の多様化に伴い、学習面・生活面・経済面等に課題を抱える学生が増加している。休学や退学に至る要因は複雑化しており、早期把握と早期支援のさらなる充実が必要である。学生情報の共有や保護者との連携を強化し、継続的な支援体制の構築を進める。

5. 卒業生との連携強化および教育成果の可視化

校友会組織は構築されており、在校生および一部卒業生の活躍は把握している。しかし、卒業生数の増加や進路の多様化により、卒業生全体の継続的なキャリア形成状況の把握には課題がある。卒業生とのネットワーク強化を図り、在校生支援や教育活動の改善、募集広報への活用を推進する。

校友会との連携を強化し、「つなぐ」をテーマに卒業生・在校生・学校の関係性を再構築する。卒業生による講演会やキャリア支援、企業紹介等を実施し、教育成果の検証と学校運営への活用を進める。

② 特記事項

1. 進路実績の向上

キャリアサポートセンターと各学科が連携し、個別面談や就職指導、企業説明会等を実施している。学校全体の進路決定状況は前年同期を上回っており、進路支援の成果が表れている。

2. 退学率の改善

休学・退学防止に向け、学科、教務課、学生課等が連携し、学生の状況把握と早期支援に取り組んでいる。その結果、退学率は前年同期と比較して低下しており、改善傾向が確認された。

3. コンテスト・受賞実績

AI システム科学生による各種コンテストでの受賞に加え、U-22 プログラミングコンテストにおいて局長賞およびスポンサー企業賞を受賞するなど、高度な専門教育の成果が表れている。

4. 学生の活躍による教育成果の創出

ミュージックアーティスト科在校生が、若手アーティストの登竜門として知られる「閃光ライオット」においてグランプリを受賞した。本校の実践的な教育活動の成果の一例となっている。

5. 就職実績の充実

建築系学科では、鹿島建設、大林組、清水建設をはじめとするスーパーゼネコンへの内定者を輩出した。企業連携教育や実習を重視した実践的職業教育が高い就職成果につながっている。

6. 教育成果の社会への発信

学生作品、受賞実績、就職実績等を積極的に発信するとともに、卒業生や業界との連携を通じて教育成果の可視化を進めている。今後も教育活動の成果を広く社会へ発信し、学校の教育力向上につなげていく。

(5) 学生支援

評 価 項 目	評価
1.進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2.学生相談に関する体制は整備されているか	4
3.学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4.学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5.課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6.学生の生活環境への支援は行われているか	4
7.保護者と適切に連携しているか	4
8.卒業生への支援体制はあるか	4
9.社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10.高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

6. 留学生支援体制のさらなる充実

留学生数の増加および国籍の多様化に伴い、日本語能力や生活環境、文化的背景の違いに応じた支援の重要性が高まっている。特に非漢字圏の留学生については、日本語学習支援、生活支援および就職支援を継続的に強化する必要がある。学校全体として留学生支援の充実を図るとともに、多様な学生が相互に学びやすい学習環境の整備を進める。

国際交流サロン、日本語講座、留学生就職支援等の既存施策を検証し、学習・生活・進路の各側面から支援体制を強化する。また、学科・学生課・国際部門が連携し、課題の早期把握と解決に取り組む。

7. 多様な学生への支援体制強化

合理的配慮を必要とする学生や経済的支援を必要とする学生の増加に対応するため、個々の状況に応じたきめ細かな支援体制の充実を図る。教務課、学生課、学科および保護者が連携し、早期対応に努める。

② 特記事項

3. 若きづくりびと育成奨学金の実施

従来の入学者対象「若きづくりびと奨学金」に加え、在校生を対象とした「若きづくりびと育成奨学金」を実施した。学業・作品制作・コンテスト活動等において優れた成果を挙げた学生に対し奨学金を給付するとともに、合同卒業展において表彰を行った。学生の学習意欲向上および教育成果の創出につながっている。

4. キャリアサポート体制の充実

キャリアサポートセンターと各学科が連携し、企業説明会、個別面談、履歴書指導、面接指導等を実施している。学生一人ひとりの希望進路に応じた支援を行い、進路決定率向上に取り組んでいる。学校全体の進路決定状況は前年同期を上回る成果となった。

5. 留学生支援の推進

国際交流サロンを活用した学習支援や生活支援、日本語能力向上のための各種講座を実施している。また、留学生向け就職支援や企業説明会を実施し、日本国内での進路実現に向けた支援体制の充実を図っている。

6. 学生相談および生活支援の充実

教務課、学生課および各学科が連携し、学習面・生活面・心理面等の相談に対応している。保護者との情報共有を図りながら、休学・退学防止に向けた支援を継続して実施している。

7. 課外活動および学生活動への支援

コンテスト参加、学外イベント、地域連携活動などへの支援を積極的に行っている。U-22 プログラミングコンテスト受賞や閃光ライオットグランプリ受賞など、学生の活躍は教育成果だけでなく学生の成長機会の創出にもつながっている。

8. 卒業生との連携強化

校友会との連携を継続し、卒業生の活躍状況や業界動向を在校生支援やキャリア教育へ活用している。今後も卒業生ネットワークの強化を進め、在校生支援および学校の教育活動充実につなげていく。

(6) 教育環境

評 価 項 目	評価
1.施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	2
2.学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3.防災に対する体制は整備されているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

1. 施設・設備の計画的な更新および整備

本校では、教育活動を支える施設・設備の維持管理を継続して行っているが、開校から長期間経過した施設や設備も存在している。教育内容の高度化や DX 化、AI 教育の推進に対応するため、計画的な更新・整備を進める必要がある。特に情報系・ものづくり系分野においては、業界動向に応じた設備更新が求められる。

中長期的な施設整備計画に基づき、教育効果および安全性を考慮した優先順位のもと、計画的な更新を進める。また、2027 年度新設予定のサイバーセキュリティ科およびフィギュア造形科に対応した教育設備の整備を進める。

3. 防災・危機管理体制の継続的な見直し

自然災害や感染症への対応に加え、2025 年に発生した PFOS を含む泡消火剤の流出事案を踏まえ、安全管理体制および危機管理体制のさらなる強化が必要である。

定期的な防災訓練や施設点検を継続するとともに、BCP（事業継続計画）の見直しを進める。また、教職員および学生への安全意識向上を図り、緊急時対応能力の向上に努める。

② 特記事項

1. 教育環境の維持・充実

本校では、専門教育に必要な実習設備や制作環境の維持管理に努めるとともに、企業や業界との連携による実践的な教育環境の整備を進めている。各学科において教育内容に応じた施設・設備を活用し、学生の専門性向上を支援している。

2. AI 教育および DX 対応環境の整備

専門学校部門方針に基づき、全学科での AI 教育推進に向けた環境整備を進めている。情報系分野を中心に、AI や DX 教育に対応した学習環境の充実を図り、学生が新しい技術を実践的に学べる体制づくりを推進している。

3. 防災・安全管理への取組

防災訓練や避難訓練を定期的実施し、学生および教職員の防災意識向上に取り組んでいる。また、2025 年 7 月に発生した PFOS を含む泡消火剤の流出事案については、関係機関と連携しながら対応を行った。今回の事案を教訓とし、施設管理体制および安全管理体制の見直しを進めている。

4. 産学連携を活用した教育環境の充実

高尾登山電鉄との共同プロジェクトをはじめ、企業や地域との連携による教育活動を推進している。学生が実社会と接点を持ちながら学ぶことのできる実践的な教育環境を整備し、専門知識・技術の習得だけでなく、課題解決力や協働力の向上につなげている。

5. 新学科設置に向けた環境整備

2027 年度には IT カレッジに「サイバーセキュリティ科」、テクノロジーカレッジに「フィギュア造形科」を新設予定である。サイバーセキュリティ教育に必要な演習環境や、フィギュア造形教育に必要な 3DCAD・3D プリンタ等の整備を進め、次世代の教育ニーズに対応した学習環境の構築を図っている。

(7) 学生の受入れ募集

評 価 項 目	評価
1.高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか。	4
2.学生募集活動は、適正に行われているか。	4
3.学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。	4
4.学生納付金は妥当なものとなっているか。	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

2. 日本人学生募集の強化および募集広報改革

少子化による 18 歳人口減少が進む中、本校の教育成果や特色を高校生・保護者へより効果的に伝えることが重要となっている。2026 年度募集では入学者数の改善が見られたものの、日本人学生募集の強化は引き続き重要課題である。

オープンキャンパス、ホームページ、SNS を活用した情報発信を強化するとともに、Vision Craft、コンテスト受賞実績、就職実績、産学連携教育など本校ならではの教育成果を積極的に発信する。募集データを活用した戦略的な募集活動を推進する。

3. 学科再編および新設学科の周知

2027 年度新設予定のサイバーセキュリティ科およびフィギュア造形科について、教育内容や将来性を分かりやすく発信し、新たな志願者層の開拓につなげる必要がある。

② 特記事項

1. 募集状況の改善

2026 年度募集では前年度と比較して改善が見られた。留学生募集の成果に加え、教育成果の発信強化や募集活動改善の成果が表れつつある。

2. 教育成果を活用した募集活動

AI システム科の受賞実績、U-22 プログラミングコンテスト受賞、閃光ライオットグランプリ受賞、スーパーゼネコンへの就職実績など、本校の教育成果を積極的に情報発信している。

3. Vision Craft による学校ブランド向上

学科横断型プロジェクト「Vision Craft」を本校独自の教育活動として発信し、創造力や課題解決力を育む教育の魅力を受験生へ訴求している。

4. 新学科設置による教育価値の向上

2027 年度に「サイバーセキュリティ科」「フィギュア造形科」の開設準備を進めている。社会的ニーズの高い分野への対応を進めることで、本校の教育力向上と募集力強化につなげている。

(8) 財務

評 価 項 目	評価
1.中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2.予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3.財務について会計監査が適正に行われているか	4
4.財務情報公開の体制整備はできているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

1. 持続可能な学校運営のための収支改善

教育環境整備や学生支援の充実を継続するため、安定した学生確保と効率的な予算執行が求められる。学科再編や教育改革を進めながら、健全な財務運営を維持する必要がある。

募集強化による定員充足率向上を図るとともに、教育効果を重視した予算運用を行う。中長期的な施設整備計画を踏まえた効率的な財務運営を推進する。

② 特記事項

1. 安定した財務基盤の維持

学校法人片柳学園の財務基盤のもと、安定した学校運営を継続している。予算編成および執行については適切な管理体制のもとで実施している。

2. 適正な会計監査の実施

法人監査および会計監査を適切に実施し、財務の透明性確保に努めている。財務情報についても情報公開を行い、説明責任を果たしている。

3. 内部監査による業務改善

法人内部監査室による監査を継続的に実施し、業務運営の適正化と改善を推進している。監査結果については管理職間で共有し、学校運営の改善に活用している。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	評価
1.法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2.個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3.自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4.自己評価結果を公開しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

3. 教育制度改正への対応

2026年度から導入する単位制への対応を進めるとともに、教育制度や関係法令の改正に適切に対応する必要がある。

学内での研修および情報共有を徹底し、法令や制度改正に対応した運営体制を整備する。また、自己点検・自己評価活動を継続し、教育の質保証につなげる。

② 特記事項

1. 法令遵守に基づく学校運営

学校教育法、専修学校設置基準等の関係法令を遵守し、適正な学校運営を行っている。各種規程やガイドラインに基づき教育活動を実施している。

2. 個人情報保護の徹底

個人情報保護に関する規程に基づき、学生・保護者・卒業生等の個人情報を適切に管理している。また教職員への周知徹底を図り、情報管理体制の強化に努めている。

3. 単位制導入への対応

2026年度からの単位制導入に向け、教育課程および学則等の整備を進めている。総合専門学校としての強みを活かした多様な学びの実現を目指している。

4. 自己評価活動および情報公開

毎年度自己点検・自己評価を実施し、学校関係者評価委員会の意見を学校運営へ反映している。また、自己評価結果を公開し、教育活動の透明性確保に努めている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	評価
1.学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2.学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3.地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

1. 地域連携活動のさらなる拡充

地域社会や企業との連携活動を継続しているが、本校が有する教育資源をさらに活用し、地域課題解決や人材育成に貢献する取組を強化する必要がある。

自治体・企業・教育機関との連携を強化し、実践的な教育活動と地域貢献活動を両立した取組を推進する。

② 特記事項

1. 地域イベントおよび部活動支援

ミュージックカレッジおよびスポーツ・医療カレッジを中心に、高校部活動支援や地域イベントへの協力を実施している。教育活動を通じた地域貢献を継続して行っている。

2. 高尾登山電鉄との産学連携プロジェクト

地域企業である高尾登山電鉄との連携プロジェクトを実施し、学生が実社会の課題解決に取り組む機会を創出した。地域社会への貢献と実践的職業教育の両立を図っている。

3. Vision Craft を通じた社会価値創造

Vision Craft では学科を超えた学生が集まり、社会に新たな価値を生み出すプロジェクトに挑戦している。本校独自の教育活動として、創造性や課題解決力の育成と社会貢献意識の醸成につながっている。

4. 地域社会とともに歩む学校づくり

企業、自治体、地域団体との協働を通じて、学生の学びと地域社会の発展を結びつける活動を推進している。今後も総合専門学校としての特色を活かし、地域社会への貢献を継続していく。

以上